

アミン系毒物の中毒

水俣病 清浦教授(工大)が新説

“水俣病”の原因を究明するため厚生省、水産庁、通産省、経済企画庁の四省で構成している「水俣病総合調査研究連絡協議会」は十

二日東京文京区の日本水産会館で第一回会合を開き、水俣病の原因についての調査結果を報告した。席上東京工大清浦雷作教授は熊大肉田教授の有機水銀説に反対、アミン系毒物による中毒説を発表したが、同協議会としては結論を出さず、さらに調査を進めることになった。

十二日の協議会には、“有機水銀説”に反対する東京工大清浦教授が出席。「水俣病の原因は水銀

ではなく、アミン系の毒物である」と員による中毒説を発表、熊大の内田稙男教授と対立した。清浦教授の調査は水俣湾魚貝類から抽出された高毒性物質のうちテトラメチレン・ダイアミンとペンタメチレン・ダイアミンなどアミン系毒物四種を動物実験したところ水俣病と同じ運動失調を起こしたというもの。これらの毒物は水俣地方の魚貝類のタンパク質が死後分解して発生すると同教授は推

定している。そして魚貝類を大量にとっている漁民にかきり水俣病にかかっていること一致するといふ。

この説に対して内田教授らから鋭い反論が述べられたが結局、

(一)動物実験は注射による早期発病で、慢性症状の水俣病患者の場合にたまたに適用しきれない。

(二)可能性は認められるが、直接水俣病に関連しているとは断定できない。

などの理由で、協議会としてさらに検討することになった。

水俣病の原因が“有機水銀”(会社責任)か、単なる魚貝類の中毒か結論は出なかったわけで同協議会としては今後、水銀分析を進める一方、魚貝類の毒化状態、付近漁場の汚染状態などについて調査を進めることを申し合わせた。